Book Review

一歩抜け出す未来志向の歯科医ライフ

有本博英・賀久浩生・篠原範行　著

A5 判　140 頁
定価（本体 3,200 円＋税）
医歯薬出版刊

Reviewer
藤本浩平　Kohei Fujimoto
（東京都・藤本歯科医院／米国歯周病学会認定専門医）

現在のわが国における歯科医療界の話題というと，歯科医師過剰やワーキングプア問題，また社会の高齢化や人口の減少等による患者数の減少など，ネガティブなものが多い．歯科治療は均質・規格化され，患者からは「商品」として捉えられる現象が発生している．そのため，患者は治療を受ける医院を決定するうえで歯科医療の質よりも価格・利便性に重点をおいて判断する傾向が強まる．歯科医師側も患者獲得を目的とする表面的な付加価値の付与や競合医院との差別化を求めて価格競争に基づいたマーケティングに依存する構図を生み出しているが，このような手法ではいずれ破綻をもたらし，歯科医療界のさらなる不況につながる．明るい未来への期待に胸を膨らませて歯学部に入学した学生や開業を目前に控えた若い歯科医師にとって，自ら選択した生き方が果たして正しいのか疑問に感じさせるものである．

本稿で紹介する『一歩抜け出す未来志向の歯科医ライフ』は，仕事・プライベートの両面で大きく成功した 3 名の矯正専門医が執筆し，われわれ読者に歯科医療従事者としての生き方，歯科医療の理想的な姿，歯科医院の方向性，そして歯科医院に携わるスタッフの役割を明確に示している．著者らのメッセージの根底には「欧米と比較すると日本での矯正歯科医師が不足しているが，歯科の未来は明るく，やりがいのある医療分野であるので“歯科医ライフを楽しもう！”」という発想がある．

日本には勉強熱心で，一般歯科領域を超えた高度な歯周治療や矯正治療までこなすスーパーデンティストが多くいる．しかしながら歯科医療における治療技術の進歩は著しく，常に最先端の知識・技術を維持することは困難であり，他者の評価が欠落した独りよがりの治療となる危険性がある．そこで本書では，「一人で全てこなすのではなく，専門的知識をもった歯科医師同士の連携治療，すなわち専門医による連携治療（インターディシプリナリートリートメント）」が理想的な歯科医療の形であるとしている．スペシャリティ（他の人にはできない専門性をもった歯科医療の提供）を目指して適切な歯科医療や情報を提供し，その本質的な価値を高めて他の医院との差別化を図ることで自分の医院の特徴を明確にすることが可能となるのである．

また，優れた治療を提供する医院ではスタッフも素晴らしく，歯科医師・スタッフが一丸となって強いチームを結成している．強いチーム作るため，医院に適合したスタッフを採用し，医院のコンセプトに対する理解を通じて仕事への愛着を育み，使命感を与えて患者や同僚に対して迷いなく行動ができるようになる教育プログラムも必要であると本書には説かれている．チーム一丸となって提供する歯科医療が患者の人生に大きなインパクトを与えることをスタッフが認識することが，強いチームに結びつくのである．

歯科医療従事者は患者の人生における“生活の質”にかかわる仕事をしており，良質な歯科医療（“サステイナブルな治療”）の提供を通して一人ひとりの患者の人生を良い方向に向け，さらには社会を変える力をもつ素晴らしい職業である．この，「患者の人生を変えるサステイナブルな歯科医療」を提供するためには視点を変えて歯科医師・歯科衛生士・診療室スタッフに至るまで患者との関わり方を見つめ直すことを提唱している．本書は，社会を良い方向に導くことができる治療が真に質の高い「一歩抜け出す未来志向の歯科医療」である，と締めくくられ，われわれ歯科医療従事者にとって大いに勇気と誇りを与えてくれる．